青藍

藍野大学年報 2024

SALUTI ET SOLATIO AEGROTUM
AINO UNIVERSITY

藍野大学

青　藍　【2024 年　巻頭言】

学長　佐々木 惠雲

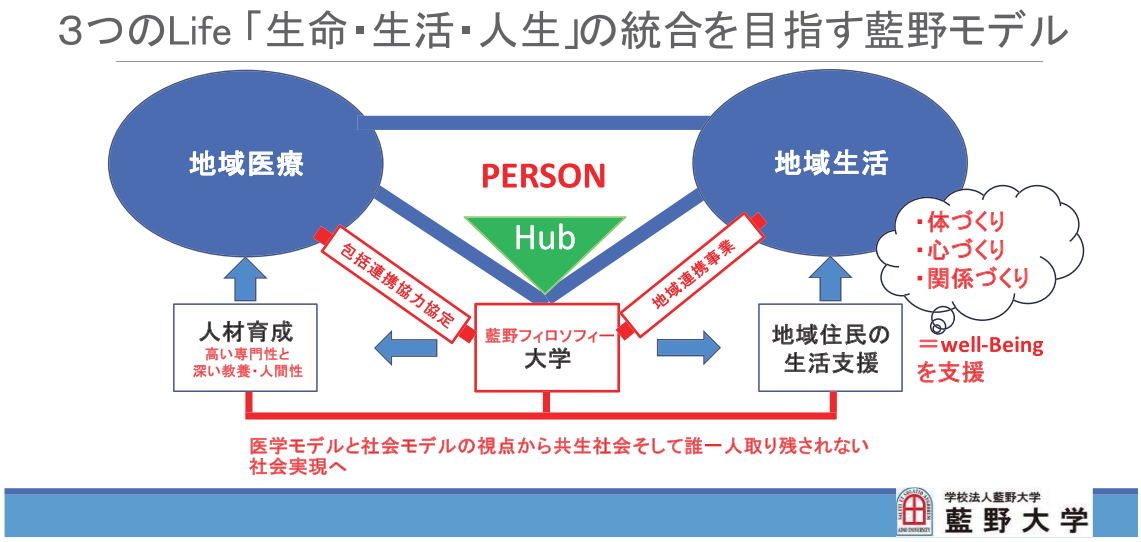
私が藍野大学学長に就任して 3 年が経ちました。この場を借りて、この 3 年の大学運営の取り組みと成果、そして次年度以降の計画について紹介いたします。

1.　藍野モデルに基づく取り組み

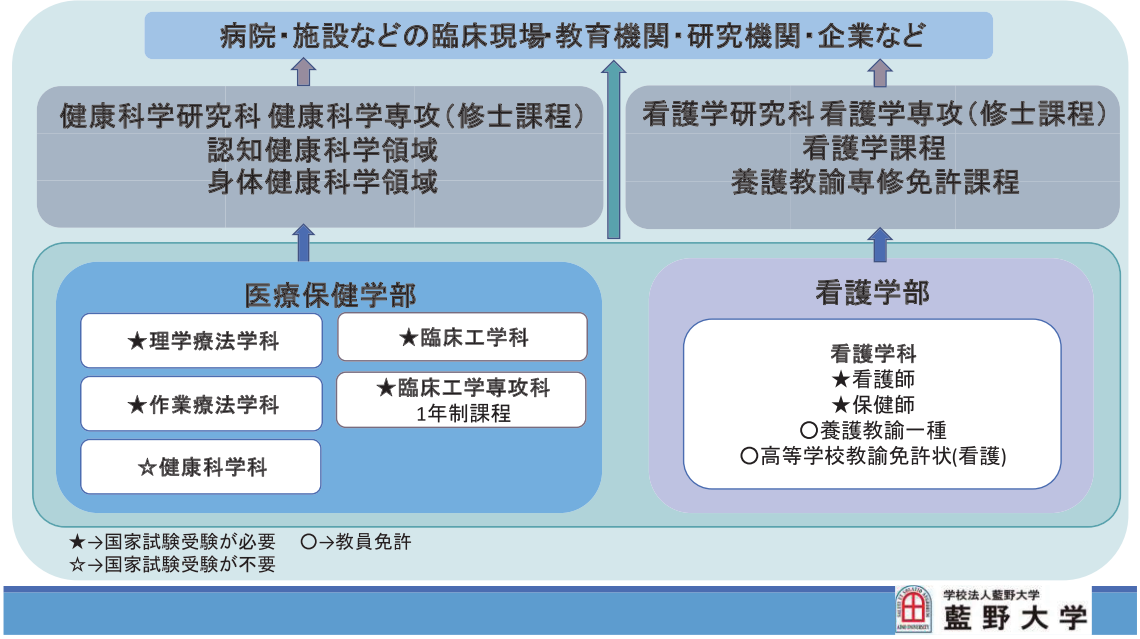
医学モデルと社会モデルの視点から共生社会を目指し、誰一人取り残されない社会を実現するため藍野モデル（図 1 参照）を提唱しています。この藍野モデルを進化させる取り組みとして、中長期を視野に入れた学部・学科の再編を実施しました（図 2 参照）。

具体的には①地域医療を支え、地域医療に貢献するため、より高度な人材育成を目指し、2024 年健康科学研究科、2025 年看護学部、看護学研究科に養護教諭専修免許課程、臨床工学専攻科をそれぞれ設置します。②地域生活の支援、さらに地域の健康増進・ウェルビーイングに貢献するため 2025 年健康科学科を設置します。これにより藍野大学は 2025 年 4 月より 1 学部 4 学科 2 研究科から 2 学部 5 学科 1 専攻科 2 研究科へと生まれ変わります。

＜図 1　3 つの Life「生命・生活・人生」の統合を目指す藍野モデル＞



＜図 2 藍野大学パスウェイ＞



2.　藍野大学開学 20 周年、藍野大学大学院看護学研究科開学 10 周年記念式典の開催

2024 年 11 月 30 日、藍野ホールにて記念式典を挙行しました。式典には招待者および本法人教職員約 250 名が出席しました。式典の第一部では理事長、副理事長および学長からの挨拶のほか、科学研究費補助金女性採択者の表彰等を行いました。第二部では、記念講演として梅花女子大学学長の河村圭子先生を講師に迎え、「ある小規模私立女子大学の挑戦」をテーマに講演いただきました。その後の模擬手術室見学会、フーコバーナでの情報交換会にも多数の招待者にご参加いただき、盛況のうちに終了することができました。式典準備にご尽力いただいた教職員の皆様に深く感謝申し上げます。この式典を通して、改めて「つながること」の大切さを強く感じました。

3.　大学に求められる 4 つの力（教育力・研究力・連携力・募集力）からみた取り組みと成果

まず教育力について述べます。2023 年度国家試験は看護師 94.4%、理学療法士 98.9%、作業療法士 97.7%、臨床工学技士 88.9%とそれぞれ全国平均を大きく上回ることができました。また 2023 年度私立大学等改革総合支援事業（タイプ 1）に二年連続で選ばれました。令和 5 年度申請 365 校中 78 校選定（選定率 21%）という非常に狭き門をクリアできたことは本学の教育力の高さを示すものとして非常に価値のあることだと考えております。

次に研究力については、科研費配分額ランキングにおいて私立大学 590 校中 256 位でした。また特筆すべき事項として令和 6 年度科研費における女性採択比率が全国 1 位になりました。昨年の 2 位に続く快挙達成です。我が国において女性教員、女性研究者の増員が喫緊の課題となっている中、本学の快挙は教育・研究分野のダイバーシティを象徴する事例として各方面から大きな注目を集めています。学会関係では研究科長西上あゆみ先生が大会長の元、日本災害看護学会第 26 回年次大会が開催されました。

連携力については、本年は社会貢献委員会の活動を中心に述べたいと思います。

① 2024 年 8 月 19 日第 2 回市民公開講座では中学生を対象として職業体験会を実施しました。茨木市内の中学生全員にチラシを配布し、募集人数を上回る申し込みがあり、大好評のうち終了しました。

本学と地域、特に中学生という若年者とのつながりを具体的に形にできたことは大きな成果だと考えています。来年も継続実施を予定しています。

② 本年度の地域連携プロジェクト補助金は5件のプロジェクトが採択されました。

1. 「地域の方・学生・教職員が自由に活用できる持続可能なパブリックスペースを目指して」
2. 「レビー小体型認知症に対する当事者および家族への支援プロジェクト」
3. 「Aino de まちトレ -Health and smile with exercise- からだをきたえて健幸生活」
4. 「発達障害・精神障害を有する不発退学児に対する作業療法支援 −地域の支援機関との連携プロジェクト−」
5. 「地域子育て世代への健康教育プロジェクト ～認定こども園や地域住民との協働～」

以上の活動は地域社会の重要な課題に取り組み、大学として社会貢献活動が進展していることを示していると考えます。

最後に募集力についてですが、2024年度新入学生は定員の0.95倍と非常に厳しい結果となりました。2024 年度入試は特に医療系にとって厳しい入試であったとはいえ、私たちは危機感を持ってこの状況に対応せねばなりません。高校訪問、オープンキャンパス、SNS 発信等、地道に粘り強く、戦略的に募集広報活動を実施することはいうまでもありませんが、新しいアプローチも必要だと考えます。

4. 藍野モデルに基づく新しい取り組み

まず最初に藍野モデルには2つの視点があることを明示したいと思います。

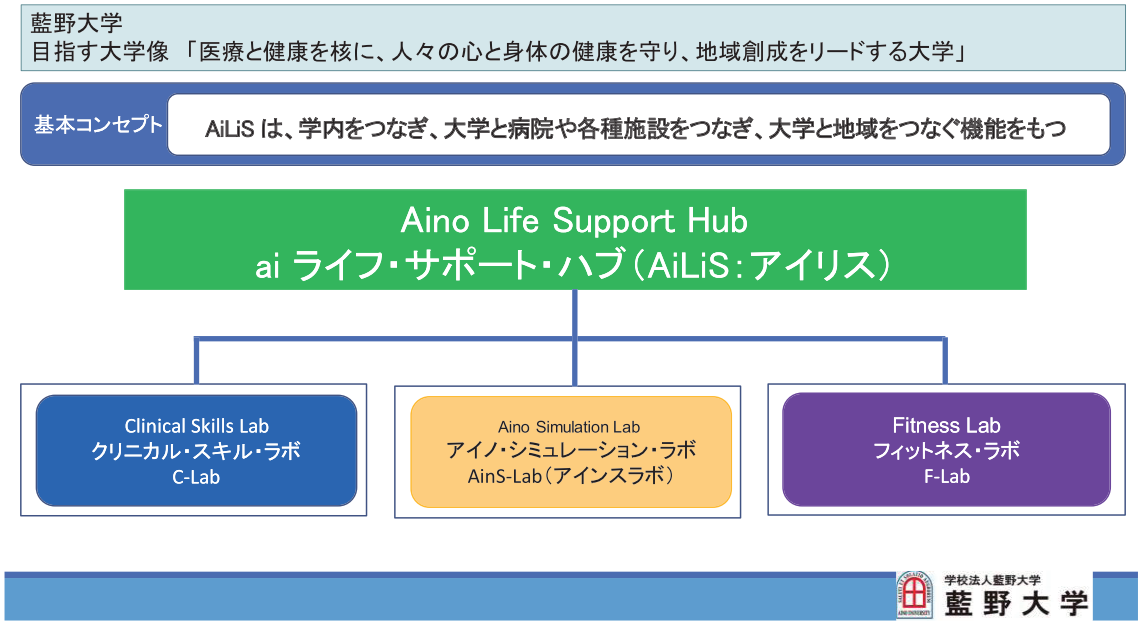
① 大学からの視点：地域医療、地域生活の充実に大学が深く関与することにより、地域と大学が協働してpersonを支援・サポートする。

② person からの視点：藍野モデルとは本来 person が中心となるシステムであり、person が主体的に「生きる」ことを支援するシステムである。「生きる」ことには生命、生活、人生の３つのLifeがある。「生きる」ことを充実させるためには、3つのLifeである生命・生活・人生それぞれの意義を深く理解したうえで実践することが必要である。また「生きる」ことの土台づくりとして、自分自身が健康を創ることも重要である。

以上この2つの視点から、藍野大学が目指すべき大学像はpersonが「生きる」こと、また「健康である」ことを地域と協働して支援・サポートしていく大学だと考えます。

これらの実現のために person、大学、地域をつなぐ機能が求められる中、新たな機能を持った施設が大学には必要だと考えます。2025 年から 3 つの施設を開設する予定です。3 つの施設の基本コンセプトは、藍野モデルに基づく、地域に開かれ、地域に貢献する施設です。それぞれの施設の概略を示します（図3参照)。

＜図 3 藍野大学 3 つの施設＞



① Clinical Skills Lab（C-Lab）：2023 年度に開設した模擬手術室はすでに人工心肺装置を用いた心臓手術のシミュレーション実習や緊急帝王切開に対する実習が実施されている施設ですが、2025 年リニューアルし、今後積極的に地域での活用を進めていきます。

② Fitness Lab（F-Lab）：2025 年 4 月に開設予定で、最新のトレーニング機器や計測装置をはじめ、ダンスやピラティスに使えるスタジオも備えている総合トレーニングセンターです。健康科学科や理学療法学科・作業療法学科を中心に地域の健康増進・ウェルビーイングに貢献できる人材育成に活用するとともに、地域に開放し、地域住民の健康増進・ウェルビーイングに直接貢献できることを目指します。

③ Aino Simulation Lab（AinS-Lab）：2025 年 6 月に開設予定で、臨場感あふれるプロジェクションマッピングによる映像投影シミュレーションや在宅看護シミュレーションを活用した実習室であり、地域看護を実践的に学べます。将来的には近隣の医療職・福祉職・介護職の総合研修や一般市民対象の災害時対応・介護教室等の実施を予定しています。

この 3 つの施設を Aino Life Support Hub（AiLiS：アイリス）と名付け、2025 年度の募集・入試広報活動にも積極的に活用していきたいと考えております。

10 年後の開学 30 周年に向けて、藍野大学は変革の歩みを止めることなく、教職員一丸となって邁進してまいります。

2024年　年報　発刊にあたって

副学長・中央研究施設長　栗原秀剛

2024 年を振り返ってみると、あまりにも多くのことがあり、あっという間に終わってしまったという感覚があります。1 月 1 日の能登半島地震では多くの犠牲者が出ただけでなく、インフラの損害が著しく、夏の能登半島豪雨も加わって 1 年たった今でも場所によって復旧の目処が立っていないことは、受け入れがたい現実です。一刻も早い復興を願っています。私は阪神淡路大震災を大阪で、東日本大震災を東京で経験しましたが、不意にやってくる自然災害に対してどのように備えておくかが極めて重要だと痛感しています。

学内に目を向けると、大学院に健康科学研究科が新たに加わりました。大学院では私の専門である腎臓学の講義を担当しており、すべてオンライン講義でしたが、スムーズにできたのではないかと自負しています。第 1 期となる大学院生も熱心に取り組んでおり、今後の活躍が楽しみです。

研究面では、文部科学省が行った今年度の科学研究費の助成事業において、採択された研究のうち女性研究者が占める割合が高い大学が発表され、本学が昨年の 2 位から遂に全国 1 位となりました。大変誇らしいことですし、科研費を獲得された先生方のご尽力に感謝申し上げます。このランキングが科研費申請数 50 件以上の大学を対象として発表されることは意外と知られていません。本学が同規模の大学の中でも高い申請数（本学では資格を有する教員のほぼ全員が申請）を誇っているからこその快挙であることは強調しておくべきでしょう。それ故、この全国 1 位は全員で勝ち取ったといっても過言ではありません。昨年もここに記載しましたが、本学における働き方改革の一環として女性研究者が活躍できるよう、なお一層研究しやすい環境づくりや支援体制の強化を具体化していくことが重要です。

2025 年は藍野大学にとって新たなページを開く大切な年となります。看護学科が看護学部として独立し、医療保健学部に健康科学科が加わり、さらに新たな施設の開設も予定されています。また、新入生を対象として電子教科書が導入されることになっており、大きく環境が変わることになります。こうした新しい風が順風となって本学を大きく前進させていくことを願っていますが、おそらく予想しないことが次々と起こることは覚悟しておく必要があります。そうしたことに適切に対応していくことで、藍野大学が新たなステージに上がることができると確信しています。教職員の方々にはなお一層のご協力をお願いいたします。

目　　次

Ⅰ　大学および学科便り
2024 年度の藍野大学医療保健学部の歩みと Ain Univ. Fitness-Lab の紹介　……　1
2024 年度 看護学科の取り組み
2024 年度の理学療法学科の取り組み
2024 年度の作業療法学科の取り組み
2024 年度の臨床工学科の取り組み
2024 年度 看護学研究科の取り組み
2024 年度 健康科学研究科の取り組み
藍野大学　中央研究施設
藍野大学　キャリア開発・研究センターの取り組み
藍野大学・藍野大学短期大学部事務センターから藍野大学事務センターへ
4 年間の図書館の歩みを振り返る
開学 20 周年について

Ⅱ　2024 年度の出来事　……　29
特集 1　2024 年の FD・SD 推進活動
特集 2　大学教育改革のトレンドと本学の教学 IR(教学 IR 室)
特集 3　一般社団法人日本災害看護学会第 26 回年次大会を開催して
特集 4　〈研究紹介〉科学研究費補助金採択課題について
１．日本における病院看護部の備えと看護師の防災リテラシーの進展
２．医療と看護と介護の連携に活かされるホームヘルパーの観察項目の研究
３．住還するネパール人：家族の生存戦略と教育課題
４．「いつ、どこでも、ひとりで」骨盤介助型歩行練習車の基盤技術構築
５．ひきこもり当事者の自宅内活動と主観的価値の解明
６．内耳における血管新生と低酸素応答についての検討
特集 5　高齢者の呼吸筋力に対する水中歩行の持続効果
特集 6　送・脱血流量が静脈リザーバ内薬液濃度変化に与える影響
特集 7　うつ病群と無気力群における脳波を用いた脳機能ネットワーク解析による媒介中心性の比較
特集 8　第 8 回世界災害看護学会への参加
特集 9　新 1 年生に対する学習基盤確立を目指した新しい学習支援の取り組み
―看護学科 1 年生担任の実践報告―
特集 10　Aino de まちトレ-Health and smile exercise
からだの調子はどうですか?からだをきたえて健幸生活
特集 11　2024 年度 作業療法学科教員による地域貢献活動

Ⅲ　学年暦・学生の状況 …… 87

Ⅳ　研究業績と社会貢献 …… 93
科学研究費助成事業について
教員研究業績・発表等
編集後記